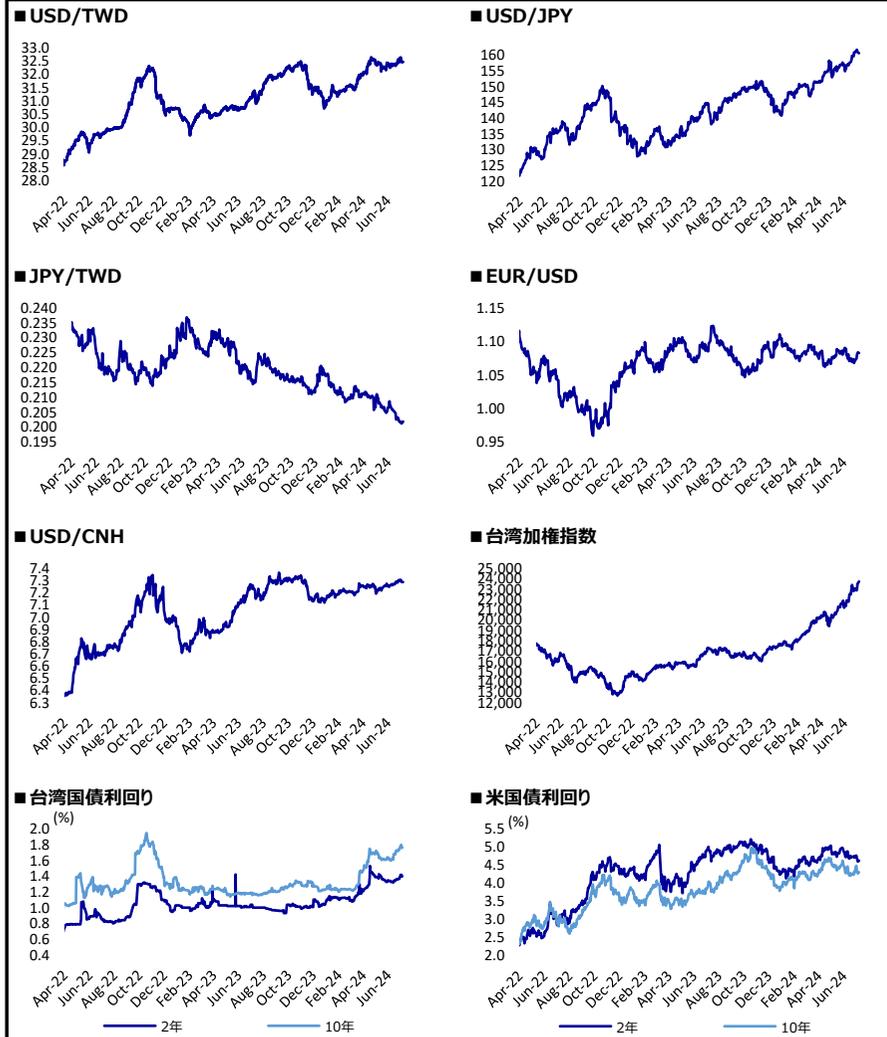


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/1は32.470でオープン後、円と人民元が下落していたことや、海外投資送金が見られていたことで、ドル買いが進み32.50台半ばまで上昇。7/2は、トランプ氏の大統領就任への期待感の高まりから米金利が上昇していた他、外国人投資家による台湾株売りも見られ、32.60台前半まで上昇。7/3は、海外投資資金送金が根強く残る中、ドル買いが進み、一時32.695まで上昇。約8年振りの高値を更新した。7/4は、前日海外時間に発表された米経済指標が軟調なものとなっていたことを受けて、米金利が低下していた他、外国人投資家による台湾株買いが見られていたことから、台湾ドルが買い戻される展開となり32.40台後半まで下落。7/5は海外時間に米6月雇用統計の発表を控え、様子見姿勢が強まり32.40台半ばで揉み合いの推移となった。最終的には前週比0.1%ドル高台湾ドル安の32.475で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は95.4億台湾ドル。

■USD/JPY  
先週のドル/円は変わらず。週初7/1は160.65でオープン後、発表された米6月ISM製造業景況感指数は市場予想を下回る結果となったものの、トランプ氏の大統領就任への期待感が高まる中、米金利が上昇。ドル買いが進み161円台半ばまで上昇した。7/2は、為替介入への警戒感が再燃するも、米5月JOLTS求人数が堅調な結果となったことを受け、売り買い交錯し161円台半ばで揉み合いの推移。7/3は、米金利上昇が続く中、ドル買いが進み一時161.96まで上昇。その後発表された米6月ADP雇用統計や、米6月ISMサービス業景況感指数が軟調な結果となったことを受け、161円台半ばまで下落した。7/4は、米国休場となる中、前日のドル売りの流れを引き継ぎ161円台前半で上値重く推移。7/5は、米6月雇用統計において失業率の上昇が確認されると、ドル売りが進み一時160.34まで下落した。最終的には前週比概ね変わらずの160.82で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.200-32.500  
今週は下落を見込む。米雇用市場が落ち着きを見せる中、米金利が低下基調となっている一方、台湾6月CPIは市場予想を上回る結果となったことで、台湾金利は上昇が続くことが想定される中、台湾ドル買い圧力が優勢となるであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：157.50-161.50  
今週は上値の重い推移を見込む。米経済に落ち着きが見られる中、米金利が低下する場合、ドルが売られやすいであろう。

今週の予定

7/8 (MON)	
7/9 (TUE)	台湾6月貿易収支
7/10 (WED)	日6月企業物価指数
7/11 (THU)	米6月CPI
7/12 (FRI)	米6月PPI、米7月ミシガン大消費者景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。